



新九郎通信

発行 小田原市栄町2-13-3 (株)伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

梅雨が明けた途端に猛暑の夏がやってきました。軒先のゴーヤや朝顔の緑のカーテンにはほっとさせられます。夏休みを待ちかねたように、次々と夏のイベントが始まりました。新九郎も夏休み恒例の子どもフェスティバルが始まりました。新九郎の夏の名物と言えば新九郎寄席(8月23日)とハワイアン(9月6日)。大いに笑って、暑気払い。大人も夏休みを楽しみましょう。



新九郎 8月の展覧会のご案内

	会期 展覧会名	見どころ
夏休み 子どもフェ スティバル	8/1(金) 3~小低 8/2(土) 小低~ 8/3(日) 幼児~ 8/4(月) 3才~	空き箱を使ってスタントカー 親子で作ろう!よく飛ぶひこ たいそう&じゃんけん大会 うんこダスマンとあそぼう! こむぎねんどであそぼう!
	8/13(水)~18(月) 比奈の会 文化部作品展	比奈の会は、高校の同期の女子 43名の集まりです。書・淡彩 画・織物・クレイドルの個性 豊かな作品です。
	8/20(水)~8/31(日) 横井山泰展 鬼のいぬまに	日常生活の出来事、ふと感じた こと、人の気持ちなどを独特の 画風で表現しています。
	8/22(金) 新九郎デッサン会	どなたでもお気軽にどうぞ! 18:15-20:45 会費 1500円 コスチューム、固定ポーズ
	8/23(土) 第10回 新九郎寄席	お待たせ! 立川志らら 笑福亭瓶二 15:00-17:00 入場料 1500円

近隣・友の会会員の展覧会情報

会期・展覧会名	会場
8/6(水)~11(月) 第96回西ゆり会美術展	飛鳥画郎 0465-24-3790
8/14(木)~18(月) 第34回ハッスル会美術展	アオキ画郎 0465-23-5624
8/21(木)~24(日) 沖野絃史イラスト展	ギャラリー城山 0465-30-2950
8/21(木)~25(月) きょうび展	ツノダ画廊 0465-22-4250
7/30(水)~8/4(月) 中村和子展	お堀端画廊 0465-23-7819
8/13(水)~18(月) KM展	お堀端画廊 0465-23-7819
8/6(水)~17(日) 江戸の粋 絵てぬぐい展	ギャラリーぜん 0463-83-4031
8/1(金)~31(日)水定休 西 浩二写真展	NARAYA CAFÉ GALLERY 0460-82-1259

感じる芸術祭「真鶴まちな一れ」町が近い、アートが近い
 2014年8月9日(土)~8月31日(日)
 メイン会場: コミュニティ真鶴
 主催: 真鶴まちな一れ実行委員会
 問合せ先: info@machinale.com
 公式HP: http://machinale.com

東海道五十三次 12 島田宿(大井川川越遺跡) 5年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



「箱根八里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川」と馬子唄にも唄われた大井川は、東海道最大の難所であった。幕府は、防衛上の理由もあ

って、大井川に橋を架けるのを許さなかった。その為増水すると川留めになり、島田宿、対岸の金谷、手前の岡部辺りまで宿泊客で潤った。川越の困難さは想像以上で、増水による川留めの最長記録は28日にもおよんだという。

江戸時代、旅人が大井川を渡るためには、人足に肩車をしてもらるか、連台という神輿のような乗り物に乗り、担いでもらっていた。その「川越し」の料金所(川会所)や、人足の待合所(番宿)などを再現したのがこの遺跡である。昭和41年に国指定史跡に指定された。

*前号.11 岡部宿の文中、8行目「家康からの」に続く「茶碗が所蔵されている。」が抜け落ちていました。訂正するとともにお詫びいたします。

絵てがみ折々 ー小田原の暮らしの中でー

野地 三恵



蓮の花が咲いているというので「中井蓮池の里」に見に行った。早朝四時半に家を出て蓮池に着いてみると、先客は若い男の人が二人。しきりに写真を撮っていた。

田んぼの中の蓮池なので、目の前で花を見ることができる。近づいて覗き込むと、蜜蜂が何匹も飛んできては花粉を集めている。黄色い花粉にまみれた蜂が動くたびに、花芯が少し揺れる。葉っぱの上をころころと転がっていく水玉。葉の先には蛙もちょこんと乗っている。小さな生き物たちの朝だ。ここは山かげになっているので、ときおり鶯の声も聞こえる。朝の光の差さないうちに、急いで描いてきた。

思うことなど

横井山 泰



いよいよ梅雨も明けて夏である。8月20日から31日まで新九郎での個展に向けて描いている。画像の「鬼のいぬまに」という作品をハガキにも使った。「犬」が出て来る絵である、赤い鬼は自分が鬼であることも忘れてのんびりしている。鬼が寝ている間に世間は動いているようだ、角も薄くなっている。

今年の鈴木隆さんとのコラボ焼き物はお面である。陶器のお面はあまりないので今からワクワクしている。そして顔がぎっしり画面を埋め尽くすシリーズも久しぶりに描いてみた。色や間を意識していくうちにやらなくなったシリーズであるが、逆に色や間を表現できるのではないかとやってみた。けっこう新鮮であるような気がする。七夕の短冊サイズの小品、絵本の原画もあり、楽しい空間になります。是非観て下さい。



23日には立川志ららさん、笑福亭瓶二さんの落語会もあるので、こちらもお見逃しなく。落語会の後にはパーティーがあります。

さて、アトリエで汗だらけになっていたら、三島のMさんから「小田原によるから呑もう」と連絡があった。三島の個展の飾りつけを終えたあと、飲み屋で仲良くなったおじさんである。「話がやたら面白いけど何者なんだろう？」物理の研究者だった。「今年の夏は何か変じゃない？ セミがいないよ」言われてみれば今年セミの声を聞いていない。彼曰く鳥は異常に多いという。

新九郎寄席

第10回を迎える恒例の新九郎寄席。今年も明るくテンポのよい立川志ららさんと、情感たっぷりの人情噺が好評の笑福亭瓶二さんのお二人をお迎えし、約2時間たっぷりお楽しみ頂きます。

2014年8月23日(土)

午後3時開演 (開場午後2時半)

会場: ギャラリー新九郎 (全80席)

小田原市栄町2-13-3 伊勢治書店本店3F



【立川志らら】

昭和48年神奈川県横浜市に生まれる
平成9年 立川志らくに入門
平成10年 高田文夫氏の預り弟子となる
平成14年 ニツ目昇進
平成25年 毎月、師匠志らくからの宿題の古典落語に挑戦中。



【笑福亭瓶二】

兵庫県多可郡出身。
1990年8月1日、笑福亭鶴瓶門下へ入門
1998年からは東京に拠点をうつす
現在は「笑福亭瓶二の mantohi 寄席」「笑福亭鶴瓶一門会」、などの落語会を中心に日本全国の落語会に定期的に出演している。

チケット料金 1,500円

【チケット取扱】全80席(全席自由)

伊勢治書店本店 (0465-22-1366)

伊勢治書店ダイナシティ店 (0465-49-8167)



平塚市美術館では、平成26年7月19日(土)~8月31日(日)に「ブラティスラヴァ世界絵本原画展—絵本をめぐる世界の旅—」を開催しています。

「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」(略称 BIB=Biennial of Illustrations Bratislava)とは、スロヴァキア共和国の首都ブラティスラヴァで2年ごとに開催される世界最大規模の絵本原画のコンクールです。隣国のチェコ共和国と合わせてひとつの国・チェコスロバキアであった1967年、ユネスコと国際児童図書評議会の提唱により始まり、

2013年に開催された第24回BIBでは、49か国、362名、2,344点におよぶ作品が出品されました。実際に出版された絵本の原画を対象にしているBIBは、まず国内で選考を行い、ノミネートされた作品を一堂に集め、ブラティスラヴァでの国際審査によって各賞が決定します。BIBは、芸術性が高い作品や、実験的でユニークな作品が集まることでも知られており、今回は、準グランプリに相当する「金のりんご賞」を日本人作家のはいじまのぶひこ氏ときくちちき氏が受賞し、注目を集めています。

このたびの展覧会では、各国内での選考を経てノミネートされ、2013年9月にブラティスラヴァで行われた国際審査によって決定した、グランプリをはじめとする受賞作品および日本からの出品作品を紹介しています。

また、特別展示として、受賞作品以外からも注目に値する秀逸な作品を多数ピックアップし、絵本をめぐる小さな世界旅行をお楽しみいただけます。みなさまお誘いあわせの上、是非美術館まで遊びにいらしてください!!

平塚市美術館学芸員
安部沙耶香



7月のこと

街なみ再発見!展改め、第12回街展が、小田原銀座通り5つの画廊を会場に開催された。ネーミングが新装なったせいか、作品が生き生きと新鮮に感じられた。水彩作品が多いが油絵、パステル、木版画、切り絵、絵てがみ、写真等多様な表現によるところが街展の特色であり、また今年から街並み(建物)のみならず、街に暮らす人、なりわい、風景とテーマを広げたことにより、木地挽き職人、商店主などの人物画や、港の灯台、桜のある風景、流鏝馬、北条五代祭り等小田原らしい情景や行事などモチーフに拡がりが出て、小田原の街の魅力をより一層深く表現できることにつながっていると思う。

出品者は小田原・西湘地域の方はもとより、秦野、厚木の方もいる。外から見た小田原のどこに魅力を感じるのか興味深い。また昨年展覧会を見て関心をもち、初めて応募された方や、中には締切前日画材店で展覧会のことを知り初めて応募された方など、毎年少しづつではあるが新しい参加者が増えている。これも嬉しいことである。

長く小田原に住む方にも、新しく移ってこられた方にも、それぞれに街の魅力を再発見、確認できる場になっていることが、会場に訪れる皆さんの会話の中から伺える。12回と回を重ね、描く人にも鑑賞者にも小田原の街を再発見する展覧会として、定着してきたように感じられる。11月頃には出品作から選定した毎年好評のカレンダーができあがる。お楽しみに。

Ⓞ